創価大学教育学論集　第69号：富岡　pp. 61 ～ 79

日本人学生の老化と高齢者に対する態度
―老化への不安と自己効力感との関連―

富岡　比呂子

要約

私立大学生357名（男子139名，女子218名）に高齢者との接触・生活経験・老人学に関する知識を問う質問紙に加えて，以下の５つの尺度を実施した。①縦型／横型―個人主義／集団主義尺度　②高齢者に対する態度・認知　③老化に対する不安尺度　④自尊感情尺度　⑤自己効力感尺度

性別と学年の主効果を分析すると「縦型個人主義」「横型個人主義」「自尊感情」は男子が女子より有意に高く，「横型集団主義」は女子が有意に高い値を示した。学年による主効果は，「縦型集団主義」のみ見られた。性別と学年の交互作用はなかった。「老化への不安」は「高齢者への態度・認知（肯定的意識）」及び「自尊感情」「自己効力感」と有意な負の相関があった。このことにより，高齢者に対する肯定的意識や高い自尊感情や自己効力感を持つことは老化への不安を軽減させる可能性が示された。さらに，「高齢者への態度・認知」は「自己効力感」及び「横型集団主義」「縦型集団主義」と有意な正の相関を示した。上記の分析から，日本において文化的に優勢とされている集団主義の文化規範を持つことが何らかの形で高齢者に対する肯定的意識や自己効力感に影響を与えることが示唆された。

I.　はじめに

本研究の目的は，日本人大学生の老化（Aging）と高齢者（Older Adults）に対する態度（Attitude) や認知（Perception）を質問紙調査を通して検討することである。高齢者（Older Adults）の定義は，65歳以上であり（WHO, 2017），現代のわが国における高齢者の人口は3186万人（平成25年9月15日推計）で，総人口に占める割合は25.0％となり，人口，割合共に過去最高となった。男女別にみると，男性は1369万人（男性人口の22.1％），女性は1818万人（女性人口の27.8％）と，女性が男性より449万人多い。高齢者人口の総人口に占める割合は，昭和60年に10％を超え，20年後の平成17年には20％を超え，その8年後の平成25年に25.0％となり，初めて4人に1人が高齢者となった。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると，この割合は今後も上昇を続け，平成47年には33.4％となり，3人に1人が高齢者に

なると見込まれている（総務省統計局，2017）。このように，今後わが国においては，社会全体における高齢者の割合も増えて，高齢者と接する機会も多くなることが予想される。それと同時に，我々もいずれは高齢者となることを考えると，高齢になることをどのように認知するのか，肯定的に（もしくは否定的に）受け止めるか等の態度や，高齢者についての知識の有無が，QOL（Quality of life：生活の質）にも少なからず影響を与えると考えられる。

先行研究では老化や高齢者に対する価値観はポジティブなものからネガティブなものまで多岐にわたり，所属する社会や文化規範によっても異なるとされている (Gellis, Sherman & Lawrance, 2003)。例えば，アメリカ合衆国のような個人主義の国では，自立や個人的幸福の追求が重視され，社会における高齢者の価値はあまり高いとはいえない。これに対し，中国のような集団主義の国においては，家族の結束や相互依存など人間関係が重視されるため，高齢者は尊重され，高く評価される傾向にある（Musaiger & D'Souza, 2009)。しかし，現在の中国は西洋化や近代化が進み，伝統的価値観が崩れ，高齢者に対する否定的な態度の増加を示す研究も存在する (Zhou, 2007)。

日本における高齢者に対するイメージについての先行研究を概観すると，宮本ら (2015) はコメディカル学生（一般には医師・歯科医師以外の看護師を含む医療従事者を目指す学生）の高齢者観を把握するために，高齢者に対する態度尺度を作成した。探索的因子分析をおこなったところ，「若者との対比」「存在意義と支援」「社会的価値」「（高齢者）特有の問題」の 4 因子が抽出され，一定の信頼性と構成概念妥当性が確認された。こちらは一般的な高齢者に対する態度評価とは異なる特徴を有するが，高齢者をとらえる枠組みとしては基礎的な視点を提供するものといえよう。また，滝川ら（1999）は看護学生における高齢者に対するイメージについて，「老年看護学概論」の授業の前後で質問紙調査を通して，その変化を検討した。結果として，「外観性」「能力」「性格」「幸福性」などの 7 つの高齢者イメージがどれも授業後に肯定的な方向に変化していることが示された。これは，高齢者の身体的・精神的・社会的特徴に対する正しい知識と理解を深めることが，老年期に対する基本的な概念を変容させ，高齢者をとらえる視座を広げた可能性が示唆されている。

上記のように，看護・医療系の学生を対象とした高齢者に対する態度に関する研究は見られるが，一般学生に関する研究はあまり多くは見られないといえる。そこで，本研究では，経済学部や教育学部などの一般的な文系学部の学生を対象に高齢者に対する態度や認知を図る尺度を実施した。

さらに，本研究では高齢者に対する尺度に加えて，国際比較研究を視野に入れて縦型及び横型の集団主義と個人主義を図る尺度を用いた (Triandis & Gelfland, 1998)。比較文化心理学の分野では，東洋は集団主義を重視し，西洋は個人主義を重視する文化規範を持つと言われている。集団主義とは，個人の利益よりも集団の意思決定を重

視する考えで，個人主義は国家や社会の権威に対して，個人の自由と権利を主張する立場をとる(Singelis, Triandis, Bhawuk, & Gelfand, 1995)。こうした従来の個人主義／集団主義をもとに他人との間の競争や格差（階層構造）を容認するかしないかという次元を交差させたものが，「縦型／横型―個人主義／集団主義尺度」である。この尺度は階層社会の中で他人との競争を厭わずに個人の利益を優先させる「縦型個人主義」(vertical individualism）と，個人主義的ではあっても平等性を重視し，「出る杭」となって打たれることを避けたがる「横型個人主義」(horizontal individualisrn)，集団主義の中で個人の利益を犠牲にしても格差や階層を容認する「縦型集団主義」（vertical collectivism）と，集団主義において平等を重視する「横型集団主義」（horizontal collectivism）の4種の価値観についての設問からなり，この尺度を用いることでどれが内面的規範として優勢かを検討することが可能になる。

日本における個人主義・集団主義尺度を用いた研究としては，日本人学生における対人関係や文化的規範への適応との関連を検討した下田・田中(2006)の調査があり，「縦型／横型―個人主義／集団主義尺度」を用いた研究としては，大橋(2004)の日米の大学生およびその親に対する日米差と世代差に着目した論文がある。研究結果としては，縦型個人主義・横型個人主義・縦型集団主義・横型個人主義のいずれの得点もアメリカの調査協力者が日本の調査協力者よりも高くなっており，集団主義的であるといわれている日本の横型集団主義の得点もアメリカの方が高くなっていることが示された。

上記の先行研究をふまえて，本研究では，日本の大学生における老化と高齢者に対する態度の基礎分析の結果について検討したい。統計的な記述結果の分析が主になるが，自由記述の回答も含めて日本人大学生の特徴や，その社会的・文化的な影響との関連性を考察することを試みる。「縦型／横型―個人主義／集団主義尺度」を通して文化的に優勢な社会観や自己観を分析し，高齢者に対する態度・認知および老化に対する不安，また自尊感情や自己効力感との関連性についても分析をおこなう。

II. 調査方法

1．調査対象

2016年10～11月に東京の私立大学生367名（男子139名，女子268名）に以下の尺度を実施した。対象者の学年，性別は以下の通りである（表1参照）。

2．使用尺度

本調査では以下の6つの尺度を使用した。本研究で使用した尺度はすでにアメリカ・中国で実施され，妥当性や信頼性が確認されている。今回は，原本をバイリンガル話者とバックトランスレーションの手続きをふまえて，日本語に翻訳して実施した。

表１　対象者の学年・性別の内訳

		学年					合計
		１年	２年	３年	４年	その他	
性別	男子	104	18	9	4	4	139
	女子	167	27	13	7	4	218
合計		271	45	22	11	8	357

①高齢者との接触・生活経験・老年学に関する知識を問う質問
過去の高齢者との接触・生活経験や，高齢者の定義，高齢者の介護経験や老人学に関する知識を問う設問で全 14 問（うち，4 問が一部自由記述式）
②縦型／横型―個人主義／集団主義尺度 (Triandis & Gelfland, 1998）.
縦型個人主義・横型個人主義・縦型集団主義・横型集団主義から各 4 問で合計 16 問。
③高齢者に対する態度・認知 (Kogan, 1961）
高齢者の住居，行動様式，生活習慣，能力，性格的特徴についての認知・イメージを問う設問で，肯定的意識・否定的意識が各 17 問で合計 34 問。
④老化に対する不安尺度 (Lasher & Faulkender, 1993).
老化に伴う身体的・精神的変化についての不安や老後の人間関係についての態度・認知を問う設問で全 15 問。
⑤自尊感情（自己記述質問票より抽出）（富岡，2011）
全体的な自尊感情を問う設問で 5 問抽出。
⑥自己効力感尺度 (Schwarzer & Jerusalem, 1995).
主にレジリエンスに関連する自己効力感を問う尺度で 5 問抽出。

III. 結果

1．高齢者との生活経験などについての回答の分析

質問紙の各問と回答は以下の通りである（表 2 参照）。 幼少時の高齢者との生活経験については（問 1：あなたの幼少時，祖父母や他の高齢の親戚と共に生活していたことはありましたか），「はい」と答えた回答者が 42.1％，「いいえ」が 57.1％と，4 割強の学生が高齢者との生活経験があったとしている。

幼少時に高齢者と過ごした時間の長さ（問 2：幼少時に，どの程度祖父母や高齢の親戚と時間を共に過ごしましたか）については，「ときどき過ごした」（20.0％）「かなり頻繁に過ごした」（37.0％）と，半分以上が比較的多く時間を過ごしたと回答した。

成長後の高齢者との人間関係（問 3：成長した後で，どの程度祖父母や高齢の親戚と近しい関係を持っていますか）については，こちらも「ときどき持っている」（29.8％）「かなり頻繁に持っている」（31.4％）と，半分以上の学生が成長後も高齢

表２　高齢者との生活経験などについての回答の分析

問1	あなたの幼少時，祖父母や他の高齢の親戚と共に生活していたことはありましたか。	はい	いいえ				
		154 (42.1%)	209 (57.1%)				
問2	幼少時に，どの程度祖父母や高齢の親戚と時間を共に過ごしましたか。	全く過ごさなかった	少し過ごした	まあまあ過ごした	時々過ごした	かなり頻繁に過ごした	
		14 (3.8%)	81 (22.2%)	62 (17.0%)	73 (20.0%)	135 (37.0%)	
問3	成長した後で，どの程度祖父母や高齢の親戚と近しい関係を持っていますか。	全く関係を持っていない	少し持っている	まあまあ持っている	時々持っている	かなり頻繁に持っている	
		14 (3.8%)	57 (15.6%)	71 (19.4%)	109 (29.8%)	115 (31.4%)	
問4	現在，どの程度祖父母や高齢の親戚と近しい関係を持っていますか。	全く関係を持っていない	少し持っている	まあまあ持っている	時々持っている	かなり頻繁に持っている	
		24 (6.6%)	77 (21.1%)	69 (18.9)%	112 (30.7%)	81 (22.2%)	
問5	あなたの考えでは，何歳から「高齢」になると思いますか。	65歳	60歳	70歳	75歳	80歳	55歳
		118 (32.4%)	104 (28.6%)	98 (26.9%)	12 (3.3%)	9 (2.5%)	7 (1.9%)
問6	将来の職種として，高齢者と働くことを計画していますか。	はい	いいえ	おそらく	わからない		
		27 (7.4%)	165 (45.2%)	52 (14.2%)	120 (32.9%)		
問7	将来の職種として，子どもと働くことを計画していますか。	はい	いいえ	おそらく	わからない		
		130 (35.7%)	91 (25.0%)	54 (14.8%)	89 (24.5%)		
問8	あなたはどの程度宗教的（信心深い）ですか。	全く宗教的ではない	少しは宗教的である	ある程度は宗教的である	非常に宗教的である		
		20 (5.5%)	71 (17.5%)	175 (48.1%)	94 (25.8%)		
問9-1	今までに高齢者と働いた経験はありますか。	はい	いいえ				
		59 (16.4%)	301 (83.6%)				
問9-2	「はい」と答えた人は，どのような状況下でしたか。	（回答は本文参照）					
問9-3	その経験はいかがでしたか。	ポジティブ	ネガティブ	ニュートラル（どちらでもない）			
		42 (61.8%)	3 (4.4%)	68 (33.3%)			
問10-1	今まで高齢者の世話をしたことがありますか。	はい	いいえ				
		93 (27.0%)	251 (73.0%)				
問10-2	「はい」と答えた人は，どのような状況下でしたか。	（回答は本文参照）					
問10-3	その経験はいかがでしたか。	ポジティブ	ネガティブ	ニュートラル（どちらでもない）			
		43 (50%)	12 (14.0%)	31 (36.0%)			
問11	いままでに老人学（gerontology: 人や老年期についての学問）のクラスを履修したことはありますか？	はい	いいえ				
		9 (2.5%)	352 (97.5%)				
問12	今までに老人学に関する内容が含まれている授業を履修したことはありますか。	はい	いいえ				
		21 (6.0%)	330 (94.0%)				
問13	あなたはどの程度人の老化のプロセスについて精通していますか。	全く精通していない	あまり精通していない	どちらともいえない	少し精通している	非常に精通している	
		88 (24.2%)	145 (39.9%)	99 (27.3%)	31 (8.5%)	0 (0%)	
問14	もし「老化と高齢者」という名前の授業があったら，履修したいと思いますか。	全く思わない	あまり思わない	どちらともいえない	少し履修したい	非常に履修したいと思う	
		31 (8.6%)	99 (27.3%)	106 (29.3%)	111 (30.7%)	15 (4.1%)	

者と比較的交流を持っていると回答した。同じく，現在の高齢者との人間関係（問4：現在，どの程度祖父母や高齢の親戚と近しい関係を持っていますか）については，こちらも「ときどき持っている」（30.7%）「かなり頻繁に持っている」（22.2%）と，半分以上の学生が成長後も比較的交流を持っていると回答した。核家族化が進む現代のわが国においても，大学生においてこのような高齢者との交流・接触経験が多くみられることは一つの発見であるといえよう。

問5の「あなたの考えでは，何歳から「高齢」になると思いますか」については，高い順に65歳（32.4%），60歳（28.6%），70歳（26.9%），75歳（3.3%）となり，WHOや厚生労働省における「65歳以上」としている割合が回答者の約3分の1となり，逆にそれより若い「60歳」「55歳」（1.9%）としている割合が3分の1，65歳より高齢である70歳以上と回答している割合は約3分の1ときれいに3分割されている印象となった。

将来の職種を問う問題（問6：将来の職種として，高齢者と働くことを計画していますか）については「はい」（7.4%）に対して「いいえ」（45.2%）となっており，将来的に高齢者と働くことを志向している学生は半数以下であった。しかしながら，「わからない」と回答した学生も32.9%存在していた。

将来の職種として子どもと働くことについての設問（問7：将来の職種として，子どもと働くことを計画していますか）については，「はい」（35.7%）「おそらく」（14.8%）を合計すると約50%となった。これは，今回の調査協力者の35.1%が教育学部生で教職志望者が多いのが一つの要因と考えられる。

宗教的であるかについての設問（問8：あなたはどの程度宗教的（信心深い）ですか）については，「ある程度は宗教的である」（48.1%）「非常に宗教的である」（25.8%）の合計が73.9%となり，約4分の3の学生が宗教的であると回答していた。

高齢者との労働経験に関する設問（問9−1：今までに高齢者と働いた経験はありますか）については，「はい」（16.4%）「いいえ」（83.6%）となり，高齢者と働いた経験のある学生の割合は多くはなかった。その中で，具体的な状況を問う設問（問9−2：「はい」と答えた人は，どのような状況下でしたか。）についての回答は以下の通りである（自由記述式）。

「アルバイト」　25人
「職場体験」　4人
「ボランティア」　3人
「工場勤務」　2人
その他，「介護体験」「児童館」が各1人

高齢者と働いた経験についての印象を問う設問（問9−3：その経験はいかがでし

たか）については，「ポジティブ」（61.8％）「ネガティブ」（4.4％）「ニュートラル」（33.3％）となっており，約6割がポジティブな印象を持っていることが示された。

高齢者を世話した経験を問う設問（問10－1：今まで高齢者の世話をしたことがありますか）では，「はい」（27.0％）「いいえ」（73.0％）となり，27％の学生が何らかの高齢者の介護経験を持つことが示された。具体的な状況を問う設問（問10－2：「はい」と答えた人は，どのような状況下でしたか）についての回答は以下の通りである（自由記述式）。

「介護（祖母・祖父特定せず）」12人
「祖父の介護」　6人
「祖母の介護」　22人
「介護ボランティア」　14人
「デイサービス」　3人
「高齢者との交流イベント」3人

上記の回答をみると，祖父母の介護が大半を占め，その中での高齢の祖母の介護が最も多いことがわかった。家族で介護を担当したり，自宅で介護をする等の回答も見られた。介護経験についての印象を問う設問（問10－3：その経験はいかがでしたか）については，「ポジティブ」（50.0％）「ネガティブ」（14.0％）「ニュートラル」（36.0％）となっており，約半数がポジティブな印象を持っていることが示された。

老人学（gerontology：老人や老年期についての学問）についての履修経験を問う設問（問11－1：いままでに老人学のクラスを履修したことはありますか？）については，「はい」（2.5％），「いいえ」（97.5％）となり，ほとんどの学生が履修経験を持っていなかった。次の「『はい』と回答した人は，授業名を書いてください。」の設問についての，回答は以下の通りである。

「心理学概論Ⅰ」　7人

次の設問は，老人学に関する内容の授業の履修経験を問うもの（問12－1：今までに老人学に関する内容が含まれている授業を履修したことはありますか）となっているが，回答は「はい」（6％）「いいえ」（94％）となっており，こちらも問11－1と同様，9割を越える学生が老人学に関連する授業を履修したことがないと回答した。次の「『はい』と回答した人は，授業名を書いてください。」の設問についての回答は以下の通りである。

「心理学概論Ⅰ」　16人

「社会福祉入門」　2人
「生涯学習概論」　1人

老化についての知識を問う設問（問13：あなたはどの程度人の老化のプロセスについて精通していますか）については，「全く精通していない」(24.2%)，「あまり精通していない」(39.9%) となり，6割以上の学生が「精通していない」と回答した。

老化に関する授業への興味を問う設問（問14：もし「老化と高齢者」という名前の授業があったら，履修したいと思いますか。）については，「少し履修したい」(30.7%) や「どちらとも言えない」(29.3%) などの回答が多く，中程度の興味関心がうかがえた。

2．下位尺度の信頼性

縦型／横型―個人主義／集団主義尺度，高齢者への態度・認知尺度，老化への不安尺度，および自尊感情・自己効力感尺度の各下位尺度の全項目の合計得点を尺度得点とした。各下位尺度の内的整合性をみるために信頼性係数（クロンバックの α 係数）を求めた結果を表3に示す。「横型集団主義」が $\alpha = .67$ とあまり高いとはいえないが，他の因子に関してはすべての項目が $\alpha > .70$ となり，概ね高い値が得られた。本研究で使用した尺度は，英語版ですでに妥当性・信頼性を確認されている点をふまえても，ある程度の信頼性があることは予測されたが，本調査においても日本語版の尺度の内的一貫性が示されたといえよう。

表３　下位尺度の信頼性

	α 係数
縦型個人主義	.71
横型個人主義	.75
縦型集団主義	.78
横型集団主義	.67
高齢者に対する態度・認知	.77
老化に対する不安	.73
自尊感情	.74
自己効力感	.75

3．性差・学年差の検討

縦型／横型―個人主義／集団主義尺度，高齢者への意識，老化への不安尺度，自尊感情，自己効力感尺度の性別・学年別の差を検討するために，性別と学年を独立変数とし，各項目を従属変数とした2×5 の2要因分散分析をおこなった。各下位尺度の

性別・学年別の平均値・標準偏差を含む基礎統計量，性差・学年差の結果を表4に示した。

性別の主効果については，縦型個人主義（F(1, 355)＝2.82，p＜.01），横型個人主義（F(1, 355)＝2.67，p<.01），自尊感情（F(1, 355)＝2.93，p＜.01）が男子が女子よりも

表４　下位尺度得点の性別・学年別平均値・標準偏差及び性差・学年差

因子名	性差（t/p値）	学年差	全体	男子	女子
人数			357	139	218
縦型個人主義	2.81(.005**) 男＞女		23.21 (5.24)	24.28 (5.46)	22.52 (4.98)
横型個人主義	2.67(.008**) 男＞女		20.15 (5.15)	21.04 (5.56)	19.58 (4.72)
縦型集団主義		2.69（.021*）１年＞その他， ２年＞その他，３年＞その他， ４年＞その他	26.45 (5.29)	25.96 (5.54)	26.76 (5.11)
横型集団主義	2.26(.024*) 女＞男		29.45 (4.89)	28.71 (5.48)	29.92 (4.43)
高齢者に対する態度・認知			154.18 (19.16)	152.49 (20.63)	155.21 (18.18)
老化に対する不安			42.02 (9.81)	42.71 (10.12)	41.60 (9.62)
自尊感情	2.93(.004**) 男＞女		16.40 (3.89)	17.16 (4.00)	15.91 (3.75)
自己効力感			18.32 (3.78)	18.32 (3.90)	18.31 (3.70)

因子名	１年	２年	３年	４年	その他	最高（最低）値
人数	271	45	22	11	8	
縦型個人主義	23.41 (5.27)	22.95 (5.69)	21.18 (4.46)	25.09 (3.36)	20.86 (4.41)	36.00 (4.00)
横型個人主義	20.09 (5.20)	19.68 (4.82)	19.68 (3.86)	23.45 (5.36)	20.71 (5.50)	36.00 (4.00)
縦型集団主義	26.90 (5.21)	25.00 (5.10)	25.64 (5.37)	26.82 (5.12)	21.14 (6.26)	36.00 (4.00)
横型集団主義	29.62 (4.60)	28.31 (6.45)	30.41 (4.49)	27.91 (4.59)	30.43 (5.50)	36.00 (4.00)
高齢者に対する態度・認知	153.35 (19.20)	155.20 (16.72)	160.86 (23.18)	155.91 (20.11)	156.86 (17.72)	238.00 (34.00)
老化に対する不安	42.16 (9.87)	41.93 (9.19)	41.33 (9.16)	38.91 (4.76)	44.14 (18.53)	75.00 (15.00)
自尊感情	16.29 (3.83)	16.07 (3.71)	16.86 (4.61)	17.80 (4.92)	18.14 (3.24)	25.00 (5.00)
自己効力感	18.34 (3.79)	17.90 (3.63)	18.29 (3.72)	17.80 (4.69)	20.14 (3.24)	25.00 (5.00)

有意に高かった。横型集団主義（F(1, 355)＝2.26，p<.05）は女子が男子よりも有意に高い値を示した。

「高齢者に対する態度・認知」は男子が 152.49 点，女子が 155.21 点と女子が若干高いが，統計的に有意な差はなかった。「老化に対する不安」は男子が 42.71 点，女子が 41.60 点とほとんど差は見られなかった。「自己効力感」も男子が 18.32 点，女子が 18.31 点とほぼ同点となっていた。

また，縦型／横型―個人主義／集団主義尺度における各下位尺度の平均点を比較したところ，「横型集団主義」が 29.45 と最も高く，「縦型集団主義」(26.45)，「縦型個人主義」(23.41) と続き「横型個人主義」（20.15）が最も低かった。こちらも日本的な集団主義を重んじる文化的規範を反映していると言えるのではないだろうか。

学年の主効果については，「縦型集団主義」（F(1, 352)＝2.69，p< .05）のみ学年による有意な差が見られた。Tukey の HSD 法による多重比較をおこなうと，その他（5 年生以上，もしくは留学生）が 1, 2, 3, 4 年よりも有意に低い値を示したことがわかった。それ以外の下位尺度における学年の主効果は見られなかった。学年と性別の間の交互作用は，どの項目や下位尺度にも見られなかった。

4．各尺度の関連

尺度間の相関を分析した結果を表 5「下位尺度間の相関」に示す。 相関分析をおこなうと，まず，縦型／横型―個人主義／集団主義尺度においては，「縦型個人主義」「横型個人主義」との間には正の相関があり（α＝−.32），これは同じく「縦型集団主義」「横型集団主義」との間にも有意な正の相関が見られた（α＝.44）。

「高齢者への態度・認知（肯定的意識）」は「縦型個人主義」（α＝−.16）と負の相関があり，「縦型集団主義」（α＝.27）「横型集団主義」（α＝.25）「自己効力感」（α＝.16）とは有意な正の相関があった。

表 5　下位尺度間の相関

	縦型個人主義	横型個人主義	縦型集団主義	横型集団主義	高齢者に対する態度・認知	老化に対する不安	自尊感情	自己効力感
縦型個人主義	—							
横型個人主義	.32**	—						
縦型集団主義	.02	−.02	—					
横型集団主義	.08	−.08	.44**	—				
高齢者に対する態度・認知	−.16**	−.08	.27**	.25**	—			
老化に対する不安	.14**	−.04	−.16**	−.26**	−.42**	—		
自尊感情	.10	.14*	.17**	.19**	.09	−.21**	—	
自己効力感	−.01	.16**	.16**	.28**	.16**	−.20**	.52**	—

*p<.05, **p<.01

「老化への不安」は「高齢者への認知（肯定的意識）」（$\alpha = -.42$）および「自尊感情」（$\alpha = -.21$）「自己効力感」（$\alpha = -.20$）と有意な負の相関があった。また，「縦型集団主義」（$\alpha = -.16$）「横型集団主義」（$\alpha = -.26$）とも負の相関があったが，「縦型個人主義」（$\alpha = .14$）とは有意な正の相関があった。

「自尊感情」は「自己効力感」（$\alpha = .55$）と有意な中程度の正の相関を示した。これは自分について肯定的な感情を持つことと，自分の能力の見通しを持つことが出来ることとの間の関連を示し，先行研究とも一致していた。

Ⅳ. 考察

本研究では，高齢者に対するイメージや態度を検討することを試み，加えて，老化への不安や自己効力感，集団主義・個人主義との関連を検討した。

高齢者との生活経験などについての設問については，幼少期から成長後，現在にかけても半数に近い学生が高齢者との交流の時間を持っていることが示された。また，「何歳から高齢になるか」の設問については，65歳，60歳以下，70歳以上と大きく分けて回答パターンが3つに分かれていることが示された。高齢者との労働経験については全体の16％の学生が経験があると回答しており，その経験については6割を超える学生が，それをポジティブなものと受け止めている。高齢者を世話した経験については，27％の学生が経験ありと回答し，主に祖父母の介護経験をあげている。その経験については半数がポジティブなものととらえており，介護経験の内容も様々であることをふまえると，比較的肯定的な解釈が行われていることが伺えた。

性別の主効果については，「縦型個人主義」「横型個人主義」「自尊感情」において男子が女子よりも有意に高かった。個人主義を示す項目が，縦型・横型ともに男子が高い理由としては，男子の方が社会における個人主義的な規範を内面化し，階層構造や「競争」の中で個人の利益の獲得に着目する傾向があることを示唆しているのではないだろうか。また，自尊感情は男子が高かったが，こちらは自尊感情の持つ自己受容，自己肯定，積極的な姿勢など，従来男子が身につけることが望ましいとされる特性が多く設問に入っていたことが，要因の一つと考えられよう。また，この結果は大橋(2006)の縦型／横型―個人主義／集団主義尺度を用いた研究で，「縦型個人主義」「横型個人主義」が男性が女性より高い得点を示した先行研究とも一致している。

これに対して，横型集団主義は女子が男子よりも高かった。こちらは，個人の利益よりも，集団の意思決定を重視し，さらにその中でも平等性を志向する精神性が，女子によく見られる博愛的で穏便な人間関係や環境を志向するベクトルと親和性が高いという点があげられよう。女子の方が集団に準拠しやすい傾向も示唆されたといえよう。

相関分析については，集団―個人主義の文化規範と高齢者への態度，老化への不安に関してさまざまな知見が見出された。「高齢者への態度・認知（肯定的意識）」

は「縦型個人主義」と負の相関があり，「縦型集団主義」「横型集団主義」「自己効力感」とは有意な正の相関があった。日本において優位な文化規範とされる集団主義の考えを持つこと，さらに自己効力感という，自分の能力に対する肯定的評価や将来への見通しが持てることは，高齢者に対する認知にもプラスの影響を及ぼす可能性が示されたといえよう。

「老化への不安」は「高齢者への認知（肯定的意識）」および「自尊感情」「自己効力感」と有意な負の相関があった。これは，高齢者への肯定的な認知を持つことや，自尊感情・自己効力感を高めていくことで，老化への不安を軽減する可能性を示しているといえよう。さらに，「老化への不安」は「縦型個人主義」と有意な正の相関があり，階層や競争を前提とした文化規範が，高齢になることへの不安を増大させる可能性も示唆された。

さらに，「自己効力感」は「横型集団主義」「縦型集団主義」，また「高齢者への意識」と有意な正の相関を示した。このことから，日本においては，文化的に優勢とされている集団主義の考えを持つことと自己効力感の間に関連性があることが示された。

本研究の意義としては，高齢者に対する態度や老化への不安といったAgingに関する尺度を検討するだけでなく，集団―個人主義尺度や自尊感情・自己効力感尺度も分析の観点として加味することで，高齢者への意識を文化規範や自己概念との関連から多面的に検討したことにあるといえる。自分の属する社会や自分自身をどのようにとらえるかという問題は，少なからず高齢になることへの意識にも影響があることが示された。つまり，何らかの形で文化規範と高齢者意識，および自己効力感との間に関連性が見出されたことが本研究の知見の一つと考えられよう。

上記のことをふまえて，本研究の限界と今後の課題について述べる。本研究の限界としては，サンプルとなる大学数が1校だった点があげられる。今後はサンプル校を増やすことにより，性差・学年差の傾向や大学別の傾向などについてより包括的な分析が可能になることが考えられよう。また，今回は記述統計や相関分析を中心とした基礎的な分析だったため，高齢者への態度尺度や老化に対する不安尺度のより詳細な因子分析もおこなう必要があると考えられる。今後の課題としては，高齢者への態度や老化への不安に影響を与える因子を重回帰分析などを通してより細かく分析していくことがあげられる。さらに，本研究では縦型／横型―個人主義／集団主義尺度を用いることで日本においては集団主義的規範を持つことが，自己効力感や高齢者への肯定的な意識と関連があることが示されたが，将来的に日本の社会的・文化的規範が個人主義的な志向をさらに増していくのであれば，個人主義的な志向性が人々の意識に与える影響についても検討の余地があるといえる。次の分析では，本研究で得られた知見・データを用いてアメリカ・中国のサンプルと国際比較研究を行うことを計画しており，日本人の高齢者への態度の特徴やその文化規範の影響についての新たな分析・考察が期待されよう。

引用文献

Gellis, Z. D., Sherman, S., & Lawrance, F. (2003). First year graduate social work students' knowledge of and attitude toward older adults. *Educational Gerontology*, 29, 1-16.

Kogan, N. (1961). Attitudes toward old people: The development of a scale and an examination of correlations. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 62, 44-54.

Lasher, K. P., & Faulkender, P. J. (1993). Measurement of aging anxiety: Development of the anxiety about aging scale. *International Journal of Aging and Human Development*, 37, 247-259.

宮本玲子・ボンジェ・ペイター・須山夏加・小林法一 (2015). コメディカル学生の高齢者に対する態度尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 , 老年社会科学 , 37, 3-16

Musaiger, A. O., & D'Souza, R. (2009). Role of age and gender in the perception of aging: A community-based survey in Kuwait. *Archives of Gerontology & Geriatrics*, 48, 50-57.

大橋理枝 (2004). 日本人・アメリカ人の縦型／横型―個人主義／集団主義―日米差と世代差について , 放送大学研究年報 , 22, 101-110.

大橋理枝 (2006). 縦型／横型―個人主義／集団主義の性差・地域差・年齢差について：放送大学生の場合 , 放送大学研究年報 , 24, 93-100.

下田薫菜・田中共子 (2006). 日本人学生における集団主義―個人主義および高―低コンテクストと適応との関連 , 多文化関係学 , 3, 33-52.

Singelis, T. M., Triandis, H. C., Bhawuk, D. P. S., & Gelfand, M. J. (1995). Horizontal and vertical dimensions of individualism and collectivism: A theoretical and measurement refinement. *Cross-Cultural Research*, 29, 240-275.

総務省統計局 (2017). 高齢者の人口―統計トピックス―　http://www.stat.go.jp/data/topics/topi721.htm（閲覧日：2017年7月2日）

Schwarzer, R., & Jerusalem, M. (1995). Generalized Self-Efficacy scale. In J. Weinman, S. Wright, & M. Johnston, *Measures in health psychology : A user's portfolio. Causal and control beliefs* (pp. 35-37). Windsor, UK: NFER-NELSON.

富岡比呂子 (2011). 日米の小学生の自己概念 ―自己記述質問票 (SDQ-I) の心理測定的検討 , パーソナリティ研究 19, 191-205.

滝川由美子・吉本知恵・横川絹恵 (1999). 看護学生の高齢者イメージの変化―老年看護学概論の授業前・後の比較―, 香川県立医療短期大学紀要 , 1, 51-60.

Triandis, H. C. & Gelfland, M. J. (1998). Converging measurement of horizontal and vertical individualism and collectivism. *Journal of Personality and Social Psychology*, 74, 118-128.

World Health Organization (WHO) (2017). Health statistics and information systems. http://www.who.int/healthinfo/survey/ageingdefnolder/en（閲覧日：2017年7月5日）

Zhou, L. Y. (2007). What college students know about older adults: A cross-cultural qualitative study. *Educational Gerontology*, 33, 811-831.

【付記】

本調査にご協力いただいた授業担当の先生方ならびに学生の皆様に心より感謝申し上げます。

【付録】老化と高齢者に対する態度・認知についての質問紙

老化と高齢者に対する見方についてのアンケート

本研究の目的は，日本人大学生の Aging(老化)と Older Adults(高齢者)に対する態度や価値観について検討することです。これはテストではありませんので，本アンケートへの回答の有無・また回答内容は成績には一切関係ありません。あまり深刻に考えず，直観で答えてください。

【アンケート回答についての注意事項】
Part1：今の皆さんにあてはまるものに○をつけてください。また，空欄に記入してください。
Part2：あなたの考えにあてはまる数字を 1～9 から選んで，空欄に記入してください。
Part3：あなたの考えにあてはまる数字を 1～7 から選んで，空欄に記入してください。
Part4：あなたの考えにあてはまる数字を 1～5 から選んで，空欄に記入してください。
Part5：あなたの考えにあてはまる数字を 1～5 から選んで，空欄に記入してください。

※Part ごとに数字の評価区分が異なりますが，原本の質問紙に準拠しておりますので，その旨ご了承いただき，注意してご記入をお願いいたします。

Part 1：基本情報：　あなた自身についてあてはまるものに○をつけてください。

●性別：　男性　女性
●年齢：（　　）歳
●学年：　1年　2年　3年　4年　5年生以上　その他（　　）
●学部：　法・経済・経営・文・教育・理工・看護・国際教養　その他（　　）
●兄弟の数（自分を含めず）：　0　1　2　3人以上
●人種：　日本人　それ以外の国籍：（　　）

1. あなたの幼少時，祖父母や他の高齢の親戚と共に生活していたことはありましたか。
（はい・いいえ）
2. 幼少時に，どの程度祖父母や高齢の親戚と時間を共に過ごしましたか。
（全く過ごさなかった　少し過ごした　まあまあ過ごした　時々過ごした　かなり頻繁に過ごした）
3. 成長した後で，どの程度祖父母や高齢の親戚と近しい関係を持っていますか。
（全く関係を持っていない　少し持っている　まあまあ持っている　時々持っている　かなり頻繁に持っている）
4. 現在，どの程度祖父母や高齢の親戚と近しい関係を持っていますか。
（全く関係を持っていない　少し持っている　まあまあ持っている　時々持っている　かなり頻繁に持っている）
5. あなたの考えでは，何歳から「高齢」になると思いますか。（　　）歳

---

6. 将来の職種として，高齢者と働くことを計画していますか。（はい　いいえ　おそらく　わからない）
7. 将来の職種として，子どもと働くことを計画していますか。（はい　いいえ　おそらく　わからない）
8. あなたはどの程度宗教的（信心深い）ですか。
（全く宗教的ではない　少しは宗教的である　ある程度は宗教的である　非常に宗教的である）
9. 今までに高齢者と働いた経験はありますか。（はい・いいえ）
※「はい」と答えた人は，どのような状況下でしたか。
（　　）
その経験はいかがでしたか。（ポジティブ　ネガティブ　ニュートラル（どちらでもない））

10. 今まで高齢者の世話をしたことがありますか。　**（はい・いいえ）**
　※「はい」と答えた人は，どのような状況下でしたか。
（　　）
　その経験はいかがでしたか。　**（ポジティブ　ネガティブ　ニュートラル（どちらでもない））**

---

11. いままでに老人学（geerontology：老人や老年期についての学問）のクラスを履修したことはありますか？
（はい・いいえ）※「はい」と答えた人は，授業名を書いてください（　　）
12. 今までに老人学に関する内容が含まれている授業を履修したことはありますか。
（はい・いいえ）※「はい」と答えた人は，授業名を書いてください（　　）

13. あなたはどの程度人の老化のプロセスについて精通していますか。
（全く精通していない　あまり精通していない　どちらともいえない　少し精通している　非常に精通している）
14. もし「老化と高齢者」という名前の授業があったら，履修したいと思いますか。
（全く思わない　あまり思わない　どちらともいえない　少し履修したい　非常に履修したいと思う）

Part2：あなたの価値観にあてはまる数字を１～９から選んで空欄に記入してください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9

例：　1＝まったくあてはまらない　5＝どちらともいえない　9＝非常にあてはまる

1.（　　）私は何かあったとき，他人よりも，自分自身を頼る。
2.（　　）私にとって他の人よりも仕事がうまくできることは重要なことである。
3.（　　）もし同僚（友人）が表彰されたら，それを誇りに思う。
4.（　　）両親と子どもは，可能な限り一緒に住むべきである。
5.（　　）私は自分自身の判断にほとんどを頼っている。めったに他人を頼ることはない。

6.（　　）「勝つこと」は私にとってすべてである。
7.（　　）同僚（友人）の精神的健康は私にとって重要である。
8.（　　）家族の世話をすることは，たとえ自分のやりたいことを犠牲にしてもするべき私の義務である。
9.（　　）私はときどき他人がどう思おうと，自分の好きなことをする。
10.（　　）競争は，自然の法則である。

11.（　　）私にとって，人と一緒に時間を過ごすことは喜びである。
12.（　　）家族は，たとえどんな犠牲が払われようとも，一緒にいるべきである。
13.（　　）私の個人的なアイデンティティは，「他者から自立していること」であり，それは自分にとってとても重要なことである。
14.（　　）他の人が自分よりもうまく物事をなし遂げると，緊張したり興奮する。
15.（　　）他の人と協力できることは自分にとって気持ちが良いことである。

16.（　　）自身の所属する集団によって決められた決定を尊重することは，重要なことである。

Part 3 ：高齢者に対するあなたの考えに当てはまる数字を１～７から選んで記入してください。

1	2	3	4	5	6	7

例：　１＝まったくあてはまらない　　4=どちらともいえない　　７＝非常にあてはまる

1.（　　）高齢者は（高齢者用の）特別な住居に住むべきである。
2.（　　）高齢者は若い人々とも一緒に住むべきである。
3.（　　）高齢者は（自分たちとは）異なる人である。
4.（　　）高齢者は他の人と違うところはどこもない。
5.（　　）高齢者は自分を変えることはできない。

6.（　　）高齢者は新しく適応するために自身を変えることができる。
7.（　　）高齢者は年金生活者になったら，退職する。
8.（　　）高齢者はできるだけ長く働くことを好む。
9.（　　）高齢者は粗末な家に住む。
10.（　　）高齢者は清潔で，魅力的な家に住む。

11.（　　）賢明さは年齢とともに向上しない。
12.（　　）高齢者は年齢とともに賢くなる。
13.（　　）高齢者は社会に対して影響を与えすぎである。
14.（　　）高齢者は社会においてより影響力をもつべきである。
15.（　　）高齢者は他の人をしらけさせる。

16.（　　）高齢者は他の人をリラックスさせる。
17.（　　）高齢者の話は周りをうんざりさせる。
18.（　　）高齢者が過去の話をするのは良いことである。
19.（　　）高齢者は人の私事を詮索しようとする。
20.（　　）高齢者は彼ら自身の仕事に注意を払う。

21.（　　）高齢者はイライラさせるような失敗をおかす。
22.（　　）高齢者は若者と同じ失敗をおかす。
23.（　　）高齢者は近隣住民に悪影響を与える。
24.（　　）近隣住民が高齢者と交流することは素晴らしい。
25.（　　）高齢者はみんな似かよっている。

26.（　　）高齢者はみんな違っている。
27.（　　）高齢者はだらしない。
28.（　　）高齢者は清潔できちんとしている。
29.（　　）高齢者は怒りっぽく，不平が多く，不愉快にしている。
30.（　　）高齢者は快活で，感じがよく，陽気である。

31.（　　）高齢者は若者について不満を言う。
32.（　　）高齢者はほとんど若者に対する不満を言わない。
33.（　　）高齢者は過度の愛情を求める。
34.（　　）高齢者は他者からの愛情をほとんど求めない。

Part 4 ：高齢者や高齢になることについて，あなたの考えに当てはまる数字を１～5 から選んで記入してください。

1	2	3	4	5

例： １＝まったくあてはまらない　3=どちらともいえない　5=非常にあてはまる

1. (　　) 私は高齢者といることを楽しむ。
2. (　　) 高齢者と話すのは楽しいことではない。
3. (　　) 高齢者といることは快適に感じられない。
4. (　　) 高齢になると満足感を得ることが非常に難しくなるであろうことを恐れている。
5. (　　) 高齢になったときに人生に満足することは期待していない。

---

6. (　　) 高齢になったとしても自分のやりたい大抵のことはできると信じている。
7. (　　) 高齢になることを想像しても何の心配もない。
8. (　　) 老化することを少しも恐れていない。
9. (　　) 鏡を見て白髪を発見する日のことを恐れている。
10. (　　) 高齢になって，自分の友人が皆亡くなってしまうことを恐れている。

---

11. (　　) 高齢になったら，人々が自分を無視するのではないかと心配している。
12. (　　) 高齢になったとき，人生に意味が見い出せなくなることを恐れている。
13. (　　) 両親が年老いたときの健康と彼らの世話について心配している。
14. (　　) 私の両親は高齢になってもきちんと世話をしてもらえるだろう。
15. (　　) 高齢の両親の世話をすることが，私にとって非常に耐えがたいことになるであろうことを恐れている。

Part 5：あなたにあてはまる数字を１～5 から選んで記入してください。

1	2	3	4	5

例： １＝まったくあてはまらない　3=どちらともいえない　5=非常にあてはまる

1. (　　) 全般的に，私は自分自身にはいろいろな良いところがあると思う。
2. (　　) 全般的に，私は自分に自信がない。
3. (　　) 全般的に，私は自分自身をとても受け入れている。
4. (　　) 私はたいていのことが他の人と同じようにできる。
5. (　　) 私は自分自身に肯定的な（前向きな）姿勢を持っている。

---

6. (　　) 何か問題に直面しても，大抵の場合いくつかの解決法を見つけることができる。
7. (　　) もし一生懸命に努力すれば，困難な課題も乗り越えることができる。
8. (　　) ベストを尽くして，たとえ失敗したとしても，そこから立ち直ることができる。
9. (　　) 困難に陥ったときにも，元気でいることができる。
10. (　　) つらい失敗があっても，自信を失うことはない（自分を信じ続けることができる）。

ご協力，誠にありがとうございました。

Attitude towards Aging and Older Adults among Japanese College Students

Its Relations to Aging Anxiety and Self-Efficacy

Hiroko I. TOMIOKA

The questionnaire regarding experiences/contact with old people, plan to work with elderly/children in future career, and knowledge about gerontology was administered to 357 Japanese college students. In addition, horizontal/vertical–individualism/collectivism scale, attitudes toward old people scale, the aging anxiety scale, self-esteem scale, and self-efficacy scale were administered. With regard to gender difference, male students showed statistically higher scores on "Vertical Individualism," "Horizontal Individualism," and "Self-Esteem." On the other hand, female students showed statistically higher scores on "Horizontal Collectivism." There were negative correlations between "Aging Anxiety" and "(Positive) Attitude toward Old People," "Self-Esteem," and "Self-Efficacy." There were positive correlations between "Attitude toward Old People" and "Self-Efficacy," "Vertical Collectivism," and "Horizontal Collectivism." That implies having a dominant cultural orientation in the relevant society would affect the positive attitude toward aging and self-efficacy.

【Keywords】horizontal/vertical–individualism/collectivism, attitudes toward old people, aging anxiety, self-esteem, self-efficacy